

14. サギソウ（ラン科ミズトンボ属）

Habenaria radiata (Thunb.) Spreng.

2014年8月

日当たりのよい貧栄養な湿地で、高茎植物が侵入する前の環境に生育する多年草です。かつてはトキソウ（*Pogonia japonica* Reichb. f.）ともども身近な湿地に比較的に見られた、湿地の代表的な植物でした。湿地の遷移や開発による造成、園芸目的の採集圧で激減しました。茎は高さ15~30(40)cm、下部から上部にかけて葉を5枚前後つけます。上部にいくにしたがい小さくなり、最上部は鱗片葉となります。7~8(9)月にかけて茎頂に白色で径3cmほどの花を1~3(4)個つけます。南部の暖地ほど花期が遅く、南九州の低地では9月中旬に満開となります（前川）。花卉の1枚は唇弁で、他の2枚に比べて大きく、3深裂し、中裂片は披針形、側裂片は開出して縁は深く細裂します。これがあたかもシラサギが羽を広げたような姿から名づけられました。距は長さ3~4cmで斜めに下垂し、先端にしたがいやや太くなります。地下部では次年の球茎が細い匍枝の先にでき、越冬します。分布は本州から九州、朝鮮半島、台湾で、播磨地域は各地に広く点在しています。栽培が容易で愛好家も多く、いくつかの品種が作出されています。兵庫県版レッドデータブック2010のBランク、近畿版レッドデータブック2001のCランク、日本の絶滅のおそれのある野生生物第4次レッドリストはNTランクに位置する全国的に希少な種類です。当地域で見られる同属の種類にミズトンボ（*Habenaria sagittifera* Reichb.fil.）があります。両種とも湿地に生育しますが、茎が50cm以上あるミズトンボはやや栄養分の高い環境を好むようで、高茎種のサワギキョウ（*Lobelia sessilifolia* Lamb.）やサワシロギク（*Aster rugulosus* Maxim.）、ノハナショウブ（*Iris ensata* Thunb. var. *spontanea* (Makino) Nakai）が生育する環境で見られます。本種も兵庫県版レッドデータブック2010のCランク、近畿版レッドデータブック2001のCランク、日本の絶滅のおそれのある野生生物第4次レッドリストはVUランクの絶滅危惧種です。



左：サギソウ

右：サギソウ出芽状況



左：サギソウ品種『飛翔』

右：ミズトンボ